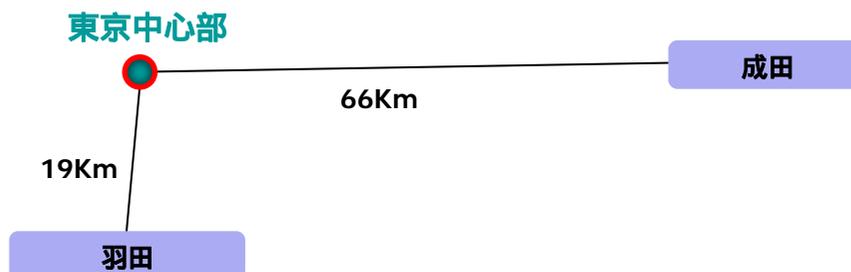


# 海外空港の実態について

---

## 都心との位置関係



## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際・国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
成田 (成田国際空港会社)	4000m 2180m	19.5万回	3548万人 (97:3)	225万t	40ヶ国、94都市 1552便/週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23:00-6:00の発着制限有</li> <li>・国際拠点空港</li> <li>・2009年度中に2180mの暫定滑走路を2500mに延伸予定</li> </ul>
羽田 (国・日本空港ビルデング等)	3000m 3000m 2500m	33.2万回	6682万人 (3:97)	85万t	3ヶ国、3都市 98便/週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間運用</li> <li>・国内線基幹空港</li> <li>・2010年10月に4本目の滑走路(2500m)が供用開始予定</li> </ul>
合計		52.7万回	1億230万人	310万t		

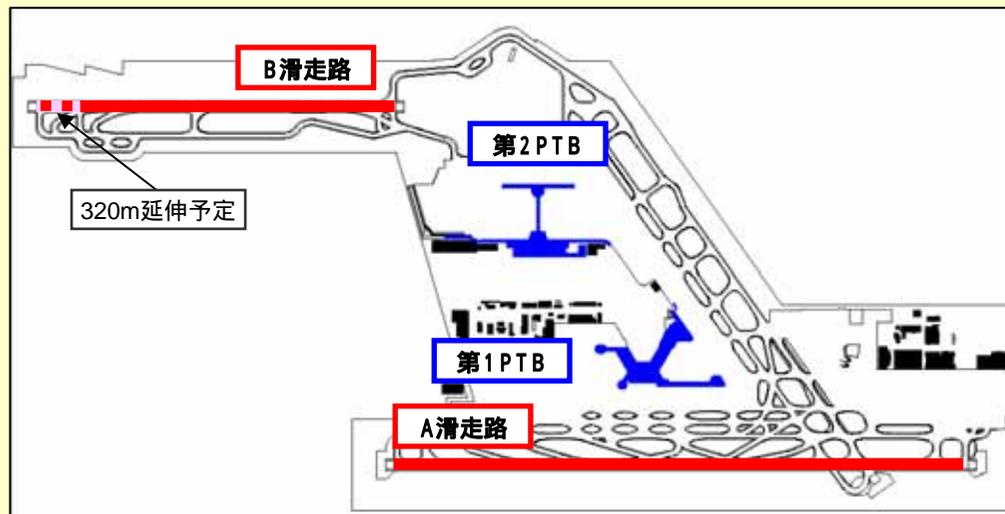
## 成田空港

国際航空需要の増大に対処し、我が国の国際交流拠点としての機能を確保するため、2009年度中の完成を目指し北伸による平行滑走路の2500m化の整備を推進中。

B滑走路を2500m化することにより、現在利用できないジャンボ機が利用可能になり、米国西海岸まで運航可能。

また、2010年3月に発着容量が22万回に増大するとともに、エプロンの拡充や旅客ターミナルビルの能力増強、物流施設の機能向上、環境対策・共生策等を推進。

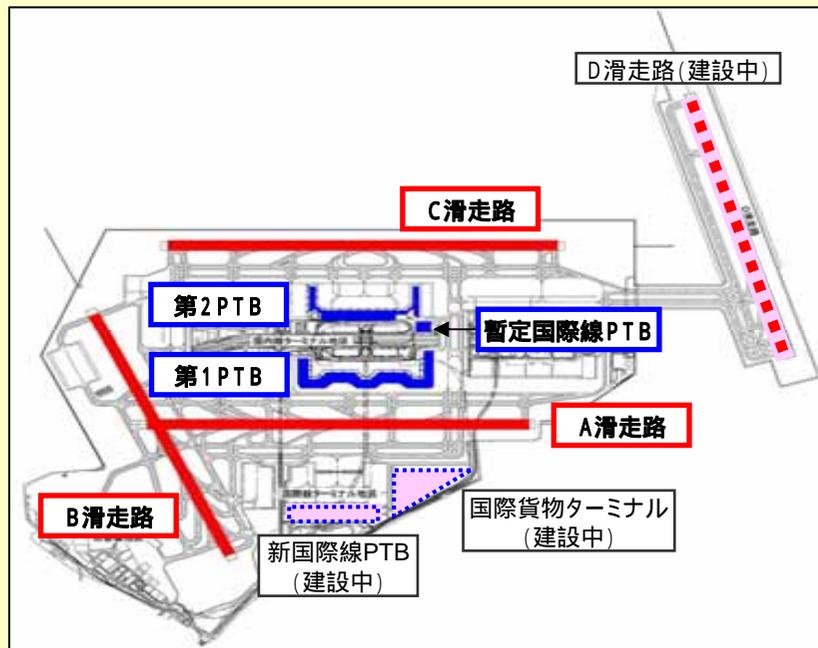
更なる容量拡大の検討に着手(成田空港会社は30万回を前提に作業)



## 羽田空港

航空需要の増加から発着能力が既に限界に達していることから、2010年10月末の供用開始を目指し、現在D滑走路及び国際線地区の整備を含む再拡張事業を推進中。

再拡張により、2011年4月には発着容量が35.0万回/年(昼間時間)に大幅に増加。慣熟の後、40.7万回/年(同)を実現。



**欧州** 11ヶ国 14都市 173便/週

- ・イギリス ・イタリア ・オーストリア
- ・オランダ ・スイス ・デンマーク
- ・ドイツ ・トルコ ・フィンランド
- ・フランス ・ロシア

**北米** 2ヶ国 22都市 360便/週

- ・アメリカ ・カナダ

東京  
(成田・羽田)

**アフリカ・中東**

2ヶ国 2都市 5便/週

- ・イラン ・エジプト

**アジア**

15ヶ国 40都市 969便/週

**オセアニア**

8ヶ国 13都市 134便/週

- ・オーストラリア ・グアム島
- ・タヒチ ・ニューカレドニア
- ・ニュージーランド
- ・パプアニューギニア
- ・フィジー ・北マリアナ諸島

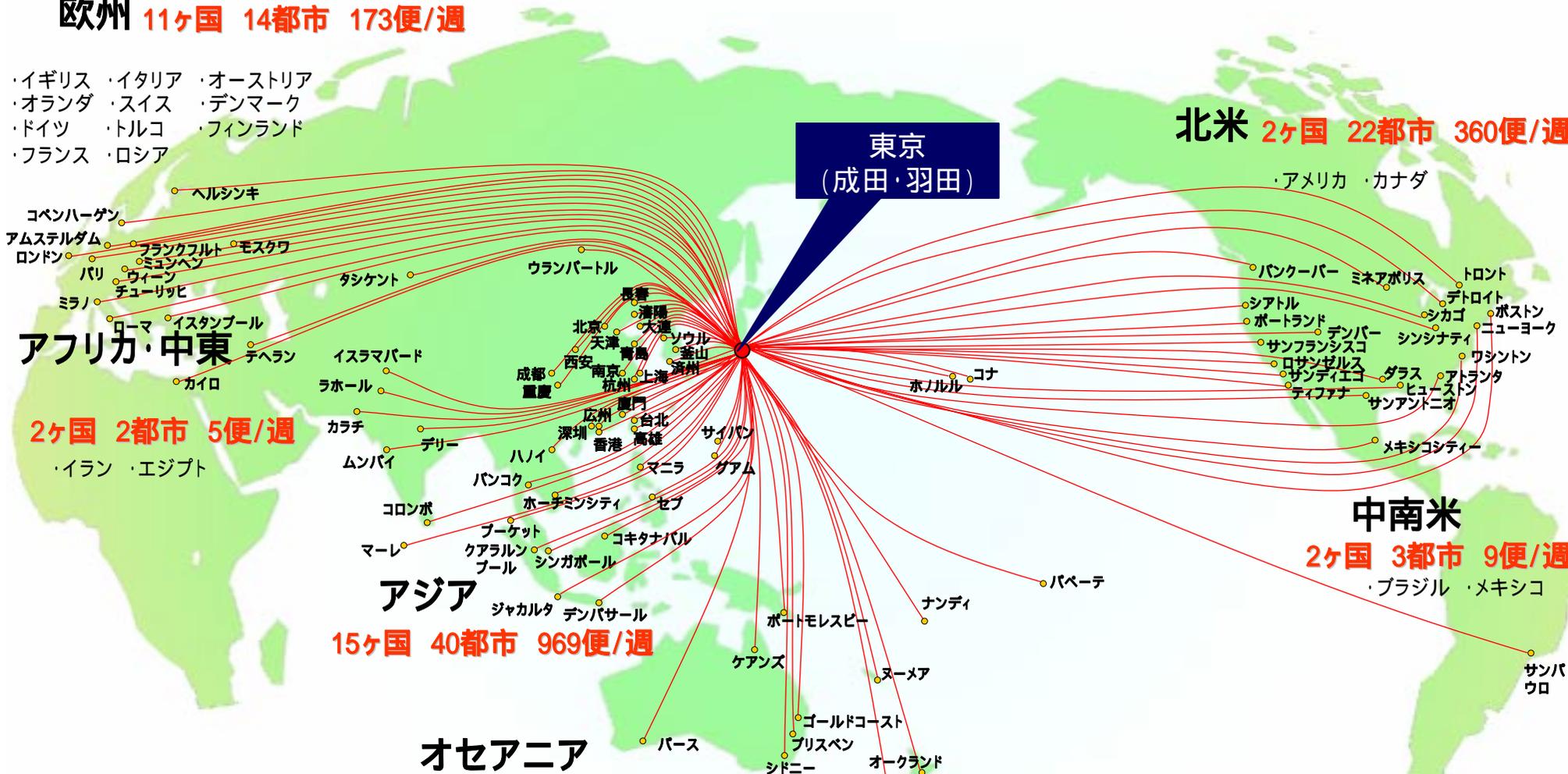
**中南米**

2ヶ国 3都市 9便/週

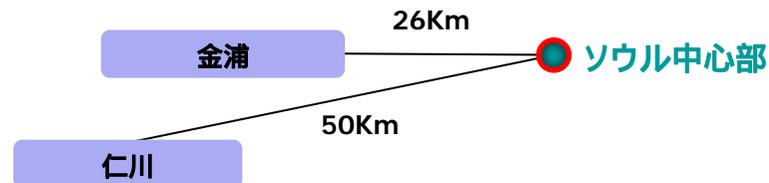
- ・ブラジル ・メキシコ

就航先(国際線)

40ヶ国、94都市 1,650便/週



## 都心との位置関係



## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
仁川 (仁川国際空港公社)	4000m 3750m 3750m	21.3万回	3142万人 (98:2)	256万t	43ヶ国、124都市 1787便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港 ・一部国内線も就航(済州、釜山、大邱)
金浦 (韓国空港公社)	3600m 3200m	11.2万回	1381万人 (12:88)	19万t	2ヶ国、3都市 105便/週	・23:00-6:00の発着制限有 ・国内線空港 ・一部国際線も就航(羽田、関空、虹橋)
合計		32.5万回	4523万人	275万t		

航空需要が増大したため、騒音・環境問題を抱える金浦空港から海上空港である仁川空港に国際線を移転。

2001年より、ソウル市内から金浦空港を經由し、仁川空港を結ぶ空港鉄道を建設。2007年3月から、第1段階として仁川空港 - 金浦空港間(6駅、37.6km)が開業。両空港を約30分で結ぶも、現在のところ需要は伸びず、1日当たりの利用者数は1万7千人程度(需要予測の約7%程度)。なお、2010年に全面開通し、仁川空港 - ソウル市内を40～50分で結ぶ予定。

### 仁川空港

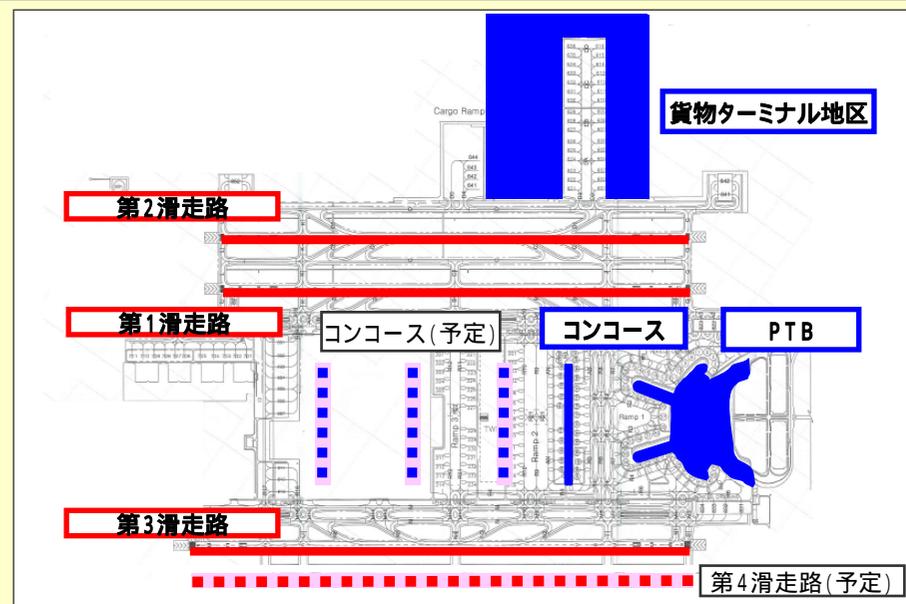
2008年6月より、第3滑走路、コンコース(サテライトビル/32スポット)の本格供用が開始し、発着回数は年間41万回、取扱能力は旅客数4,400万人、貨物量450万トンに拡大(コンコースとPTB間を地下で結ぶシャトルが運行)。

2006年から、自由貿易地域(FTZ:2,093,000㎡)が開設され、現在、DHL、AACT、AMB等、65の国際物流会社が利用。

仁川空港の国際貨物取扱量は、2007年252万トンで世界第2位。

航空会社の路線開設のインセンティブとして、新規乗り入れ航空会社に対しては、着陸料を1年間免除。既存の乗り入れ航空会社に対しても、増便する場合は、着陸料を1年間50%割引くとともに、深夜運航を行う場合も、同25%割引を実施。

マスタープランでは、将来的に4本目の滑走路(4000m)と残り3つのコンコースを建設する計画あり。

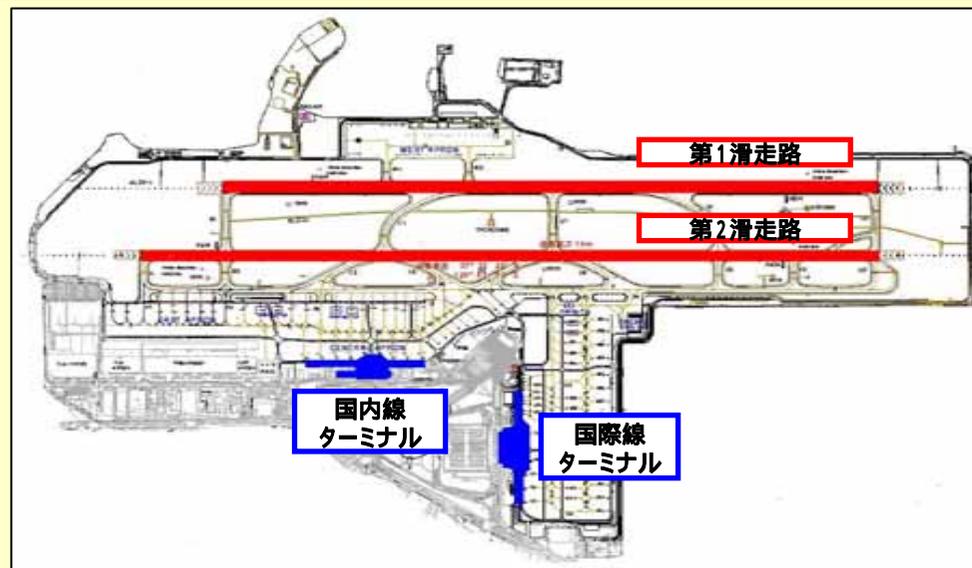


### 金浦空港

仁川空港への国際線移転後、利便性の高い金浦空港の余った容量の有効活用を各方面から指摘されたこともあり、仁川空港の国際ハブ空港としての発展に支障のない範囲で、金浦空港に国際チャーター便が認められたところ。

韓国は首都圏に人口が集中していることに加え、2004年に開通した韓国高速鉄道(KTX)や高速道路の整備により、国内線は厳しい状況にあることから、空港経営上、金浦空港の更なる国際化を望む声あり。

金浦空港は、現在でも空港能力に余力があるため、将来的に空港を拡張する計画はない。



**欧州** 12ヶ国 17都市 130便/週

- ・イギリス ・イタリア ・オーストリア
- ・オランダ ・スイス ・スペイン
- ・チェコ ・ドイツ ・トルコ
- ・フィンランド ・フランス ・ロシア

**北米** 2ヶ国 13都市 185便/週

- ・アメリカ ・カナダ

ソウル(仁川・金浦)

**アフリカ・中東**

5ヶ国 5都市 34便/週

- ・アラブ首長国連邦
- ・イスラエル ・イラン
- ・エジプト ・カタール

**中南米**

1ヶ国 1都市 3便/週

- ・ブラジル

**アジア**

17ヶ国 80都市 1,486便/週

**オセアニア**

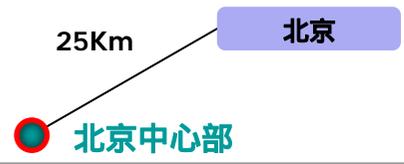
6ヶ国 8都市 54便/週

- ・オーストラリア ・グアム島
- ・ニューカレドニア
- ・ニュージーランド ・フィジー
- ・北マリアナ諸島(サイパン)

就航先(国際線)

43ヶ国、124都市 1,892便/週

## 都心との位置関係

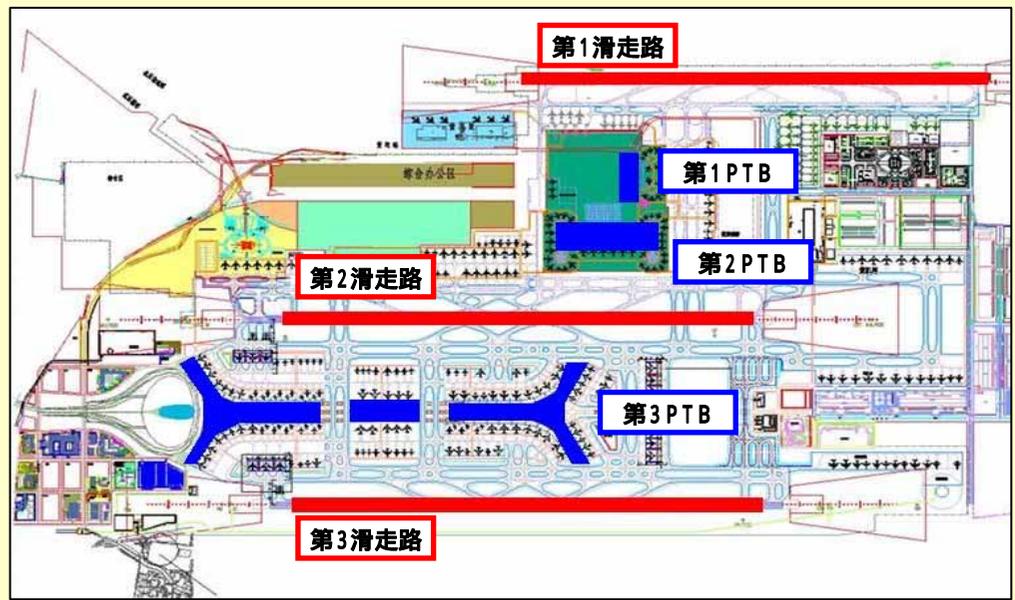


## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
北京 (北京首都国際機場有限公司)	3800m 3800m 3200m	40.0万回	5358万人 (24:76)	119万t	49ヶ国、77都市 833便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港、国内線

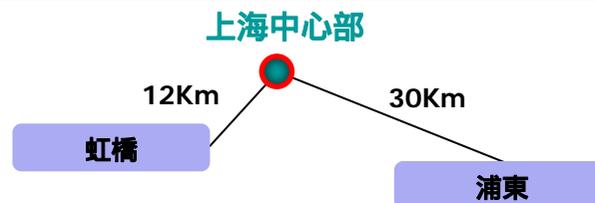
## 北京空港

2007年の年間旅客数は5,358万人(国内4,072万人、国際1,286万人)に達し、世界第9位。  
 2007年10月に第3滑走路の供用が開始。2008年2月には、世界最大となる第3旅客ターミナル(全長3km)が完成し、取扱能力は旅客数8,200万に拡大。  
 年間の発着回数は、2008年に43万回に達したが、管制や空域の制約があるため、現在のところ、これ以上の拡大は難しい。ただし、空域を管理する軍と調整できれば更に増える余地あり。  
 北京首都空港の容量が将来一杯になることに備え、首都第2空港建設の計画も存在。(建設時期と場所は未定。)





## 都心との位置関係



## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際・国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
浦東 (上海機場集团有限公司)	4000m 3800m 3400m	25.4万回	2908万人 (46:54)	256万t	30ヶ国、61都市 938便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港、主要国内線(国内線:44都市、週4517便就航)
虹橋 (上海機場集团有限公司)	3400m	18.7万回	2263万人 (1:99)	39万t	2ヶ国、2都市 63便/週	・24時間運用 ・国内線専用空港 ・一部国際線就航(羽田、金浦)
合計		44.1万回	5171万人	295万t		

虹橋空港周辺は市街地で拡張余地がなく、増大する航空需要をまかなうことができなかつたことから、新たに沿岸部に浦東空港を建設。

中国政府としては、虹橋空港に国際線を就航させると、入管・税関等の資源が分散するため、国際線は浦東空港に集中させたい意向。虹橋空港の羽田、金浦線は、政治判断に基づく例外的な措置。

2010年の上海万博の開催に向け、現在、地下鉄(2号線)の延伸が進められており、これにより空港アクセスが改善されるとともに、虹橋 - 浦東間も約80分で結ばれる予定。

浦東空港 - 上海市郊外(龍陽路駅)間の約30kmをリニアモーター(上海トランスラピッド)が約8分(最高速度430km/h)で運行。(なお、将来的に浦東・虹橋両空港を結ぶ計画はあるが、現在のところ、実現の可能性は低い。)

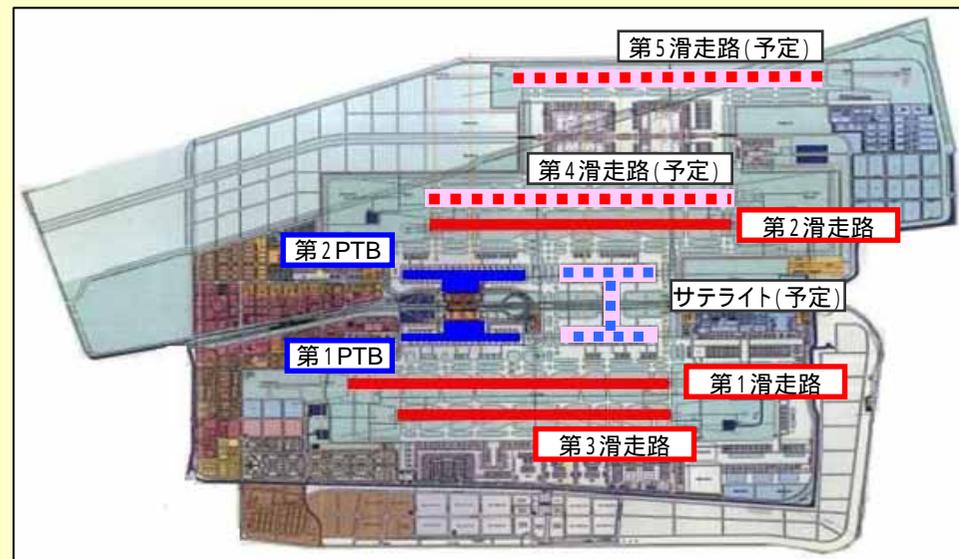
## 浦東空港

浦東空港は、北京首都空港とともに国際ハブ空港として位置づけ、所要の整備を推進。

2008年3月に、3本目の滑走路、第2旅客ターミナル、西貨物ターミナルが供用開始され、取扱能力が旅客数6,000万人、貨物量420万トンに拡大。将来的には、滑走路(5本)・ターミナルを拡張整備することで、取扱能力を旅客数8,000万人、貨物量570万トンまで引き上げる計画あり。

DHL、UPS、FedEx等の主要航空貨物会社が浦東空港に貨物基地を設け、ハブ空港として活用。

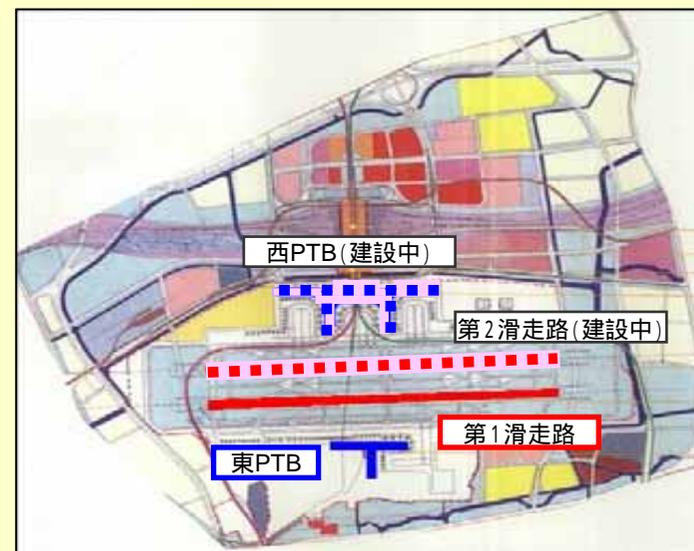
浦東空港における貨物取扱量は急速に伸び、2007年は256万トン(前年比18%増)で世界第4位。(国際貨物取扱量に限れば183万トンで世界第7位)



## 虹橋空港

1999年の浦東空港の開港後、国内線の空港として運用(2002年10月に虹橋空港の国際線が全て浦東空港へ移転)。その後、政府間の合意により、国際チャーター便が2007年9月に羽田線が、同10月には金浦線が就航。

現在、2010年の上海万博に向けて、2本目の滑走路(3300m)と西側ターミナルを建設中。2009年内に工事を完成させ、2010年3月にも供用を開始予定。将来的に、取扱能力は旅客数4,000万人、貨物量100万トンまで向上する見込み。





## 都心との位置関係



## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
香港 (香港機場管理局)	3800m 3800m	30.5万回	4704万人 (100:0 )	377万t	43ヶ国、112都市 2650便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港

特別行政区のため中国線も国際でカウント

## 香港空港

現時点における発着能力は58回/時間。  
 発着能力拡大の検討を実施し、フェーズ1として管制面の工夫により2015年までに発着能力を68回/時間にあげる予定。また、フェーズ2として、第3滑走路整備を含めた更なる能力拡大策について2009年末までに検討を実施。  
 2007年6月に、出発専用ターミナルとして、ターミナル2を整備。また、ターミナル1の改修・拡張を2011年までに実施予定。  
 ターミナル全体の固定ゲートは、49スポットで、固定ゲート率は約95%。  
 2009年末までに、サテライトを整備し、10スポットを整備。  
 ターミナル内もしくはターミナル間移動用のシャトルがあり、円滑な移動・利便性を確保  
 国際貨物取扱量は、2008年は380万トンで世界第1位。2つの貨物ターミナルで取り扱っている(うち、Hactlターミナルで、約260万トンを取り扱い、上屋としても世界1位。)が、2013年にキャセイ航空の貨物ターミナルが新設。  
 新規路線開設のインセンティブとして、新規路線を開設した航空会社に対して、着陸料を1年間減免(25~75%割引)。



## 欧州 9ヶ国 10都市 176便/週

- ・イギリス ・イタリア ・オランダ
- ・スイス ・ドイツ ・トルコ
- ・フィンランド ・フランス ・ロシア

## 北米 2ヶ国 8都市 126便/週

- ・アメリカ ・カナダ

香港

## アジア

18ヶ国 42都市 1,306便/週

## アフリカ・中東

9ヶ国 9都市 82便/週

- ・アラブ首長国連邦
- ・イスラエル ・エチオピア
- ・カタール ・ケニア
- ・サウジアラビア
- ・バーレーン ・ヨルダン
- ・南アフリカ

## オセアニア

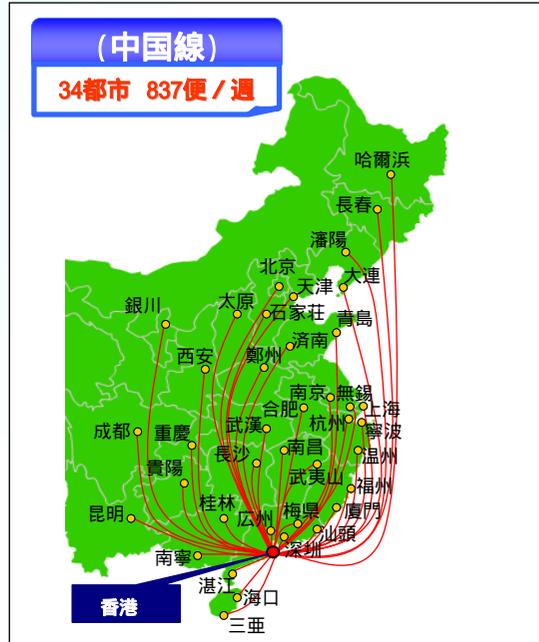
4ヶ国 9都市 123便/週

- ・オーストラリア ・ニュージーランド
- ・パプアニューギニア ・パラオ

### 就航先(国際線)

43ヶ国、112都市 2,650便/週  
うち中国線34都市、837便/週

(中国線)  
34都市 837便/週



## 都心との位置関係

シンガポール中心部



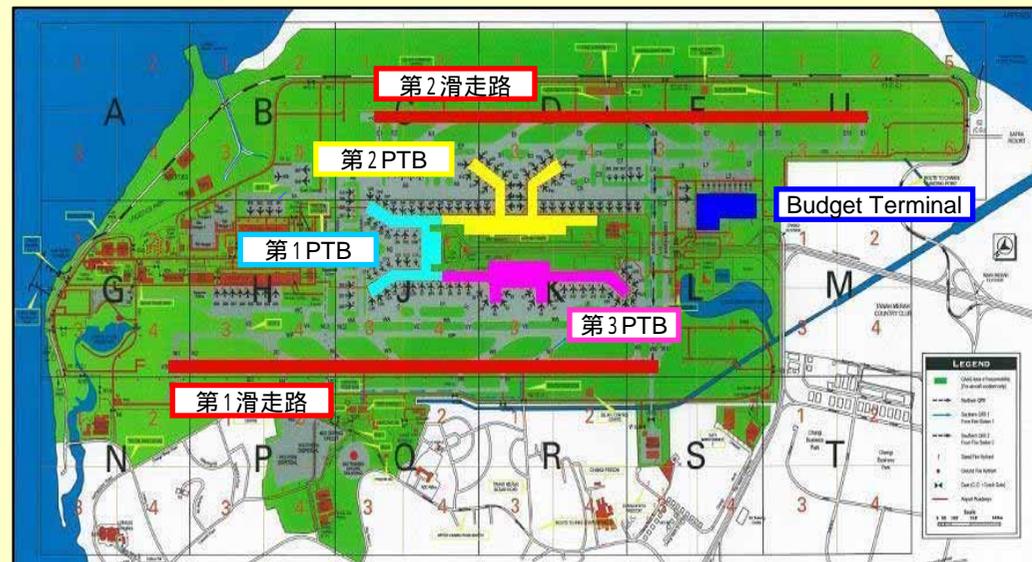
## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
チャンギ (CAAS)	4000m 4000m	22.3万回	3670万人 (100:0)	192万t	43ヶ国、115都市 2379便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港

CAAS: Civil Aviation Authority of Singapore

## チャンギ空港

チャンギ空港の取扱能力は、旅客7,300万人、貨物300万トンである。2006年に、管制面(機材に応じた到着機間隔の設定等)・施設面(誘導路等の整備)の対策により、時間当たりの発着容量を20%増加。マスタープランに沿って、計画的にターミナルの整備・拡張等を実施。ターミナル3が2008年1月供用し、ターミナル容量が拡大。また、2008年5月から2011年7月までに、ターミナル1を改修予定。ターミナル内・ターミナル間を結ぶ5路線のシャトルがあり、利便で円滑な移動を確保。トランジット客を含む利用者に対して、店舗、娯楽系・ホテルを含めた各種施設が充実しており、トランジット時間の長さに対応し、様々なサービスが提供されている。夜間帯誘致のため、2:00-6:00に離発着すれば、着陸料は40%割引となっている。LCC専用ターミナル(Budget Terminal)は、2006年3月に供用開始。2009年中に拡張を実施。LCC専用ターミナル内のオフィスやチェックインカウンター等の貸付料は、メインターミナルの50%に設定。



## 欧州 11ヶ国 14都市 162便/週

- ・イギリス ・イタリア ・オランダ
- ・ギリシア ・スイス ・スペイン
- ・デンマーク ・ドイツ ・トルコ
- ・フランス ・ロシア

## 北米 2ヶ国 8都市 70便/週

- ・アメリカ ・カナダ

## アジア

21ヶ国 74都市 1,836便/週

▶ アジア拡大版参照(次頁)

## オセアニア

2ヶ国 9都市 225便/週

- ・オーストラリア ・ニュージーランド

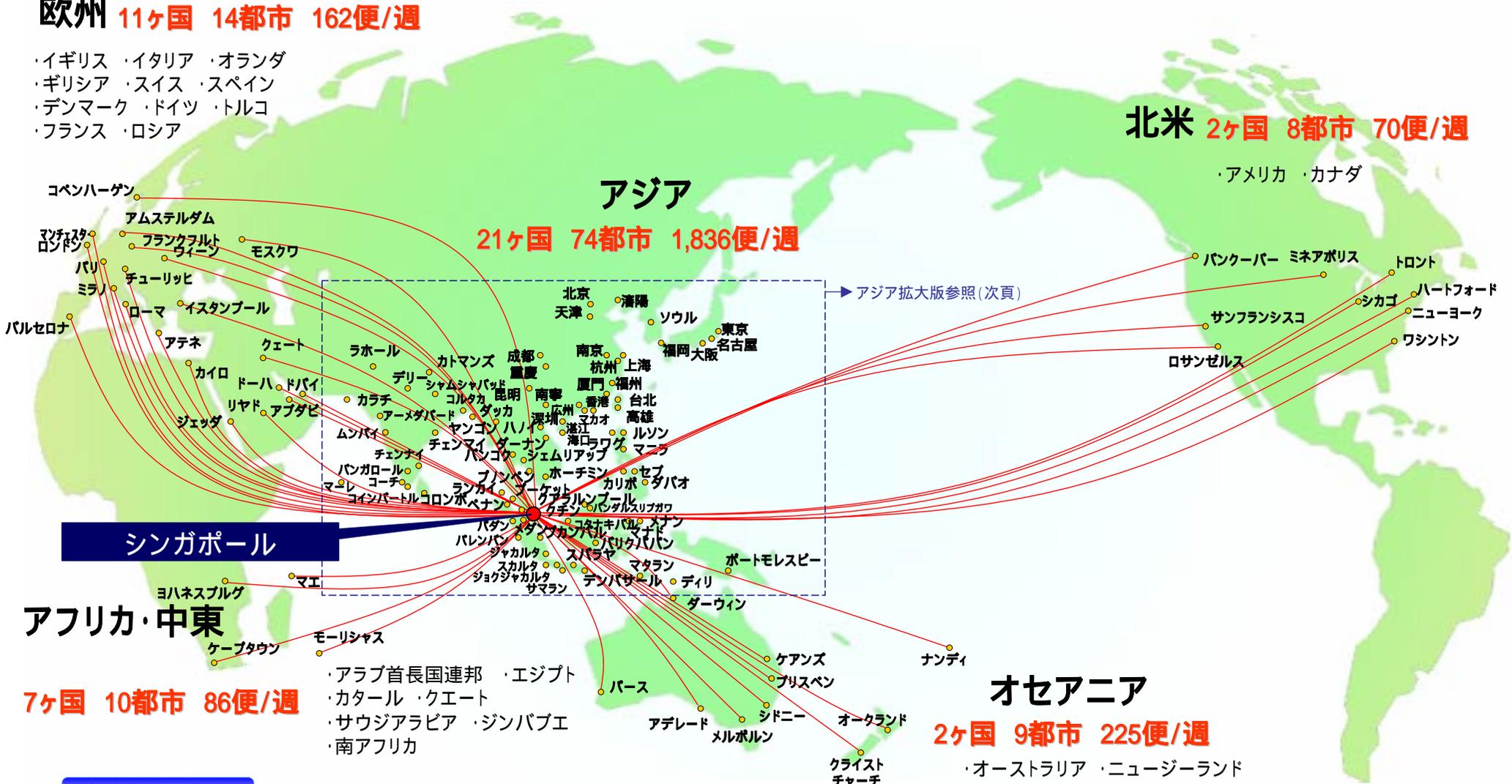
## アフリカ・中東

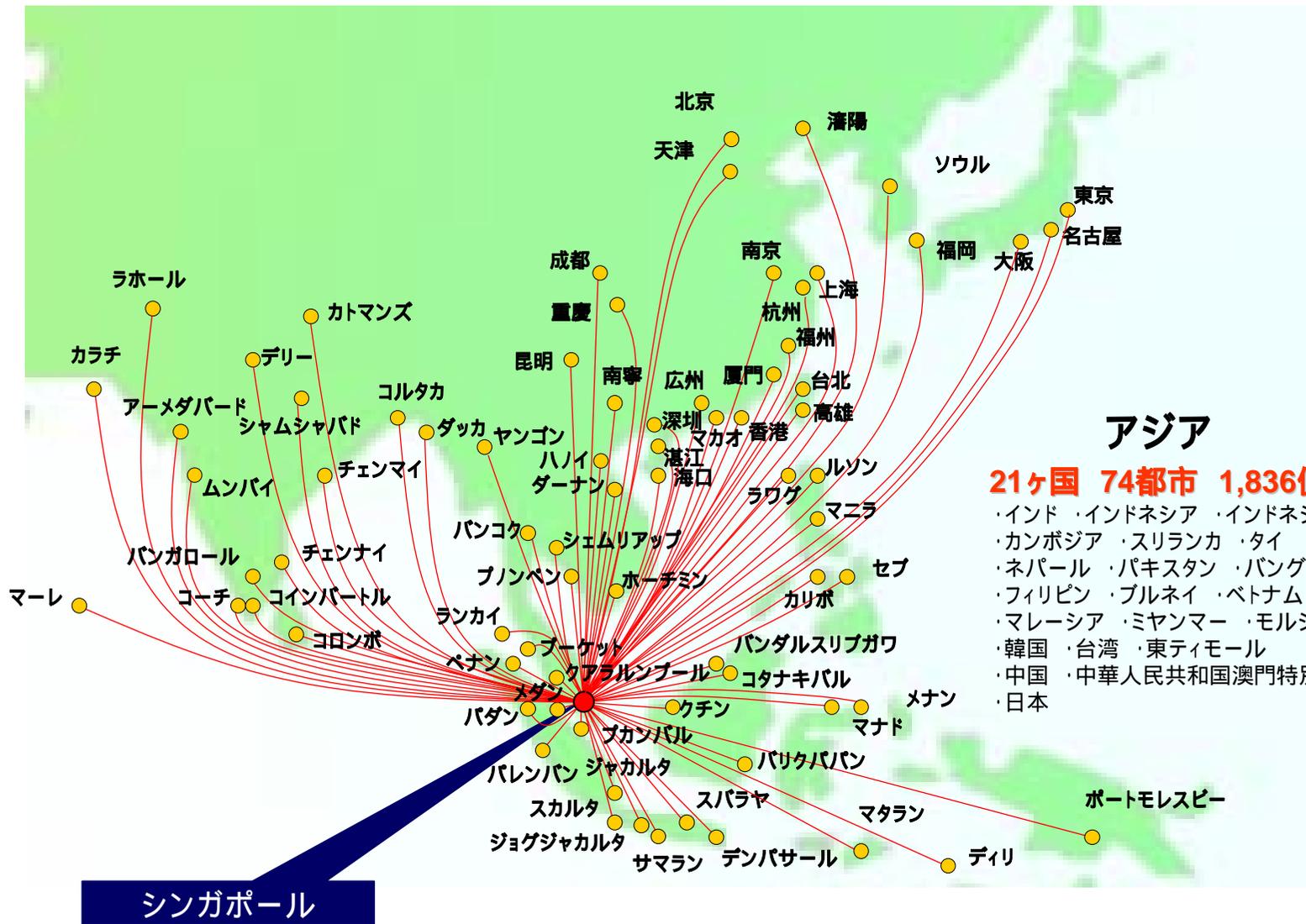
7ヶ国 10都市 86便/週

- ・アラブ首長国連邦 ・エジプト
- ・カタール ・クエート
- ・サウジアラビア ・ジンバブエ
- ・南アフリカ

### 就航先(国際線)

43ヶ国、115都市 2,379便/週





## 1. LCC専用ターミナルの現況

BUDGETターミナル 2006年 3月供用開始

< フロアー面積 > : 25,000m<sup>2</sup>

(参考 ターミナル1 約28万m<sup>2</sup>)

< 容量 > 270万人/年

(参考: ターミナル1 2100万人/年)

< スポット > 7スポット(ボーディングブリッジなし。)

< 利用エアライン > 2社

- ・Tiger Airways

- ・Cebu Pacific Air

AIR ASIA 等は、メインターミナルを利用。

< 利用便数 > 1日60便程度(離発着計)

うち、7~8割はTiger Airways

1年前は、1日50便程度であり、増加傾向。



Departures					
Time	Airline	Destination	Flight	Gate	Remarks
1153	Tiger Airways	Manila-Clark	TR 796	14516	DEPARTED
1204	Tiger Airways	Macau	TR 902		DEPARTED
1206	Tiger Airways	Padang	TR 224		LAST CALL
1225	Tiger Airways	K.Lumpur	TR 454		DEPARTED
1250	Tiger Airways	Hô Chi Minh	TR 328		DEPARTED
1320	Tiger Airways	海口	TR 936		DEPARTED
1510	Tiger Airways	Kuching	TR 494		DEPARTED
1515	Tiger Airways	K.Lumpur	TR 456		DEPARTED
1550	Tiger Airways	Perth	TR 716		DEPARTED
1635	Tiger Airways	Jakarta	TR 272		DEPARTED

7 April 2009 Tuesday Time: 12:59

## 2. LCC専用ターミナルの実態

< 運営時間 > 24時間運営 (23:00 ~ 6:00 離発着15便/日程度)

< ターミナル >

1階: チェックインカウンター、待合スペース、セキュリティーゲート、CIQ  
店舗

2階: 連絡通路

(ターミナルの導線)

[出発]

1階でチェックイン 1階でセキュリティーチェック・出国手続き

1階の搭乗ゲートで待機 徒歩で搭乗

[到着]

徒歩でターミナルまで移動 2階の連絡通路を經由

1階で入国手続き・バゲージ 1階

< ターミナル内のサービス施設 >

・ターミナル内のレストラン・コンビニ・物販(DFS含)等の店舗

< アクセス >

・メインターミナルとは、エアサイド内で連絡できていない。無料バスが両ターミナル間を5分程度で運行。

・市内主要ホテルへは、エアポートシャトル(9人乗り)が運行。(15分間隔)

無料バス(LCC専用ターミナル~メインターミナル)



チェックインカウンター(1階)

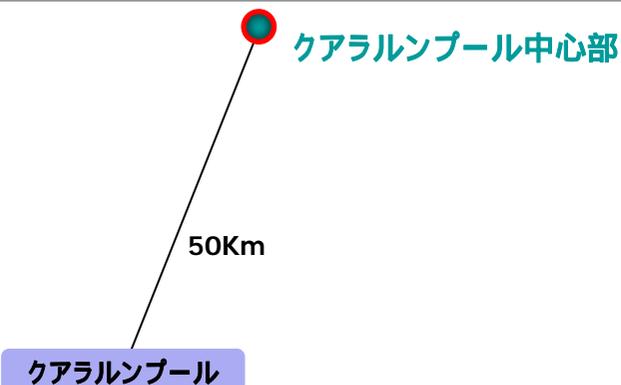


出国審査(1階)



店舗ゾーン(1階 エアサイド内)

## 都心との位置関係



## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
クアラルンプール (マレーシア空港ホールディング)	4124m 4056m	19.4万回	2645万人 (65:35)	65万t	44カ国、92都市 1494便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港、国内線

## クアラルンプール空港

旧空港(スパン空港)は拡張余地がなく、増大する航空需要をまかなうことができなかったことから、郊外に新空港を建設し、1998年6月に供用開始。クアラルンプール空港の現時点の取扱能力は、旅客2500万人。

LCC専用ターミナルが2006年3月に供用開始。LCCの旅客ニーズは堅調に伸びており、2008年では、LCC専用ターミナルの旅客数が1000万人に達し、空港全体の35%を占めている。

LCC専用ターミナルでは、着陸料やPSFCがメインターミナルの6割程度に設定されている。また、オフィス・チェックインカウンター等の貸付料についても、メインターミナルより安価に設定されている。

現LCC専用ターミナルの取扱能力は4000人/時間であるが、拡張により8000人/時間に拡大予定。

将来的には、更に新LCC専用ターミナルを整備すること等により、空港全体の取扱能力を、旅客6000万人まで拡大する計画。



## 欧州 7ヶ国 7都市 63便/週

- ・イギリス ・イタリア ・オランダ
- ・スウェーデン ・ドイツ ・トルコ
- ・フランス

- ストックホルム
- ロンドン
- アムステルダム
- フランクフルト
- パリ
- ローマ
- イスタンブール
- ベイルート
- クウェート
- テヘラン
- カイロ
- バーレーン
- マディーナ
- ドーバ
- ドバイ
- アブダビ
- カラチ
- ジャッダ
- リヤド
- サアナ
- ヨハネスブルグ
- ケープタウン

## アジア

21ヶ国 59都市 1,264便/週

- 北京
- ソウル
- 東京
- 上海
- 大阪
- タシケント
- イスラマバード
- カトマンズ
- 桂林
- 杭州
- 厦門
- 福州
- 昆明
- 厦門
- 台北
- 高雄
- 深圳
- マカオ
- 香港
- ルソン
- ハノイ
- マニラ
- ビエンマイ

## 北米

1ヶ国 2都市 6便/週

- ・アメリカ

## 中南米

1ヶ国 1都市 2便/週

- ・ブラジル

## アフリカ・中東

10ヶ国 14都市 75便/週

- ・イエメン ・イラン
- ・エジプト ・カタール
- ・クウェート ・サウジアラビア
- ・バーレーン ・レバノン
- ・アラブ首長国連邦 ・南アフリカ

## クアラルンプール

- バダク
- バレンバン
- ジャカルタ
- バンドン
- ジョクジャカルタ
- スラカルタ
- シンガポール
- マナド
- スバサヤ
- ウジュンバンダン
- ポートモレスビー
- アデレード
- メルボルン
- オークランド
- ブリスベン
- ゴールドコースト
- シドニー

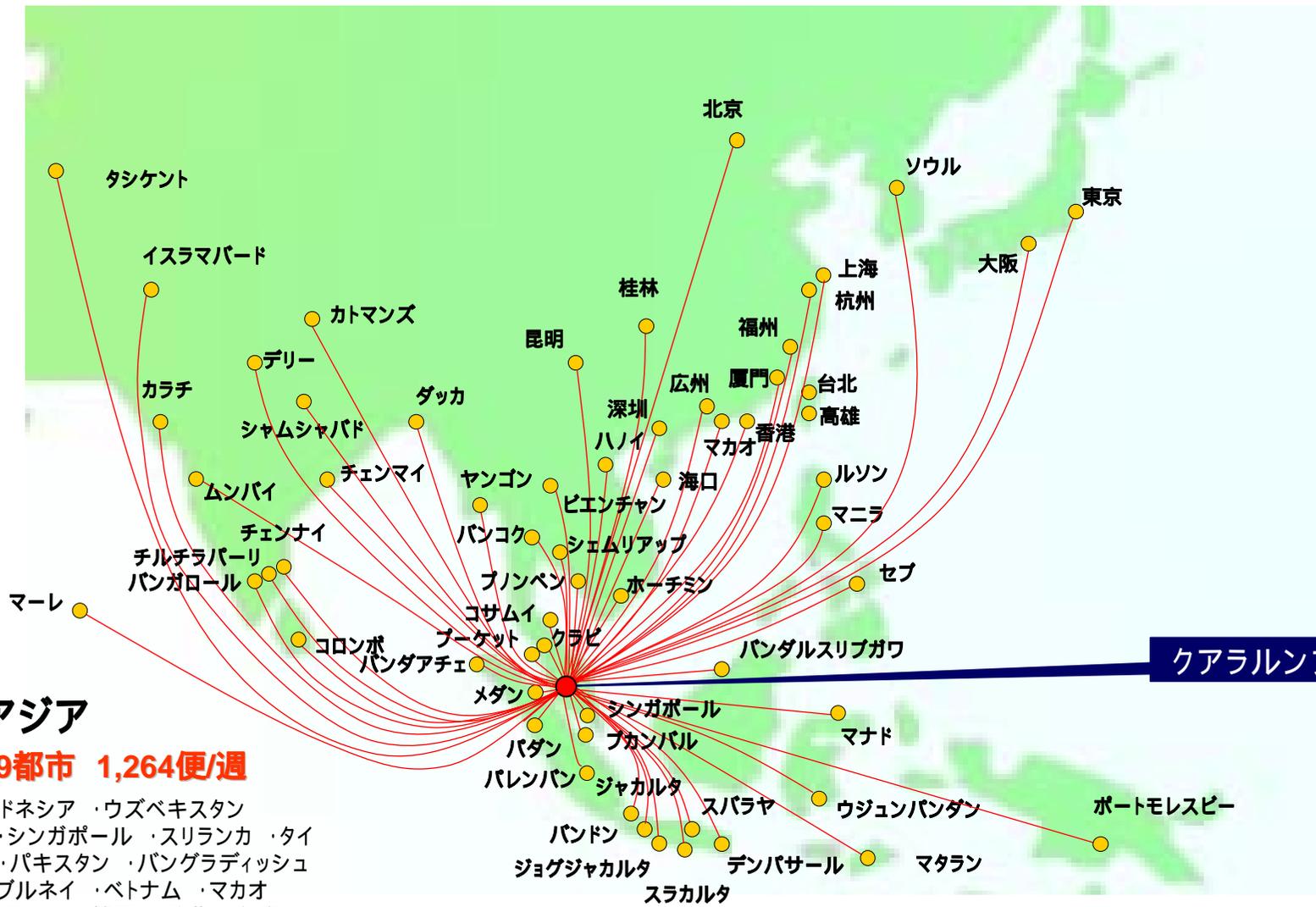
## オセアニア

4ヶ国 9都市 84便/週

- ・オーストラリア ・ニュージーランド
- ・パプアニューギニア ・モルディブ

### 就航先(国際線)

44ヶ国、92都市 1,494便/週



## アジア

**21ヶ国 59都市 1,264便/週**

- ・インド ・インドネシア ・ウズベキスタン
- ・カンボジア ・シンガポール ・スリランカ ・タイ
- ・ネパール ・パキスタン ・バングラディッシュ
- ・フィリピン ・ブルネイ ・ベトナム ・マカオ
- ・ミャンマー ・ラオス ・韓国 ・香港 ・台湾
- ・中国 ・日本

クアラルンプール

## 1. LCC専用ターミナルの現況

LCCターミナル 2006年 3月供用開始

<フロアー面積> : 31,601m<sup>2</sup>

(参考: メインターミナル 336,000m<sup>2</sup>)

<容量> 4,000人/時間

<スポット> 30スポット (ボーディングブリッジなし。)

うち、5スポットがワイド機対応。(A330等)

<利用エアライン> 6社

- Air Asia
- Thai Air Asia
- Indonesia Air Asia
- Air Asia X
- Cebu Pacific Air
- Tiger Airways

<利用便数> 1日 320便程度 (離発着計)



LCC専用ターミナルへ  
移動する到着客

年	LCC利用数	KLIA (空港全体)	対前年比 (LCC)
2006年	467万人	2413万人	-
2007年	770万人	2645万人	-
2008年	1014万人	2753万人	+ 31.7%
~2009年2月	175万人		+ 約25%

## 2. LCC専用ターミナルの実態

< 運営時間 > 24時間運営

< ターミナル >

1階: チェックインカウンター、待合スペース、店舗

2階: セキュリティーゲート、CIQ、店舗

国際線出発における導線は、

1階でチェックイン 2階でセキュリティーチェック・出国手続き

1階の搭乗ゲートで待機 徒歩で搭乗

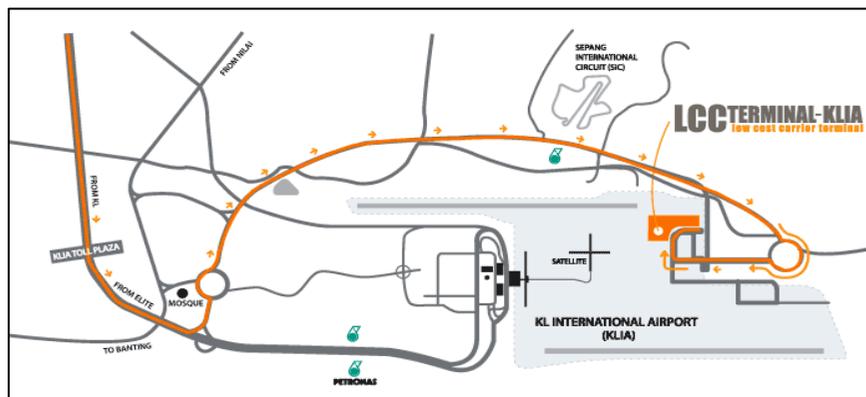
< ターミナル内のサービス施設 >

・ターミナル内のレストラン・コンビニ・物販(DFS含)等の店舗

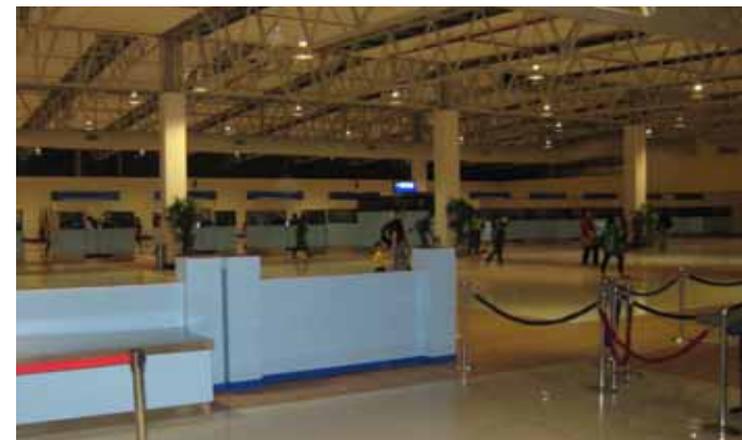
< アクセス >

・メインターミナルとは、エアサイド内で連絡できていない。バスが両ターミナル間を20分程度で運行。(料金 RM 1.50 (約40円))

・市内へは、シャトルバスが運行しており、路線は充実している。(市内セントラル駅へは30分毎。深夜早朝も1時間に1本で運行。)



搭乗ゲート周辺(1階)

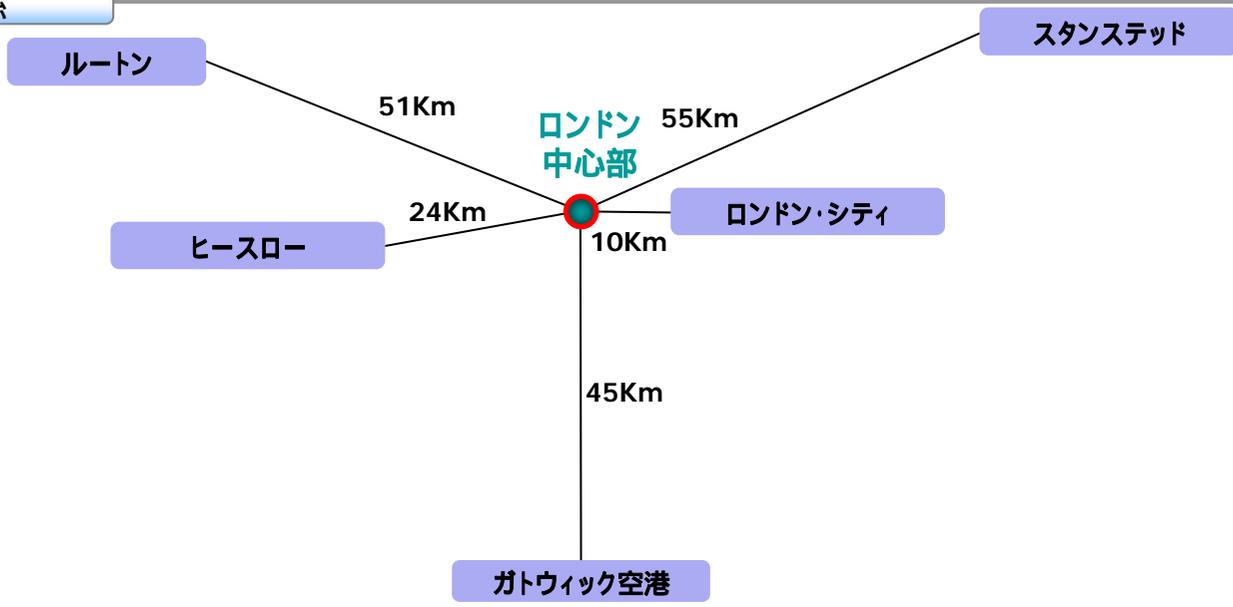


入国審査(2階)



自動チェックイン機(1階)

## 都心との位置関係



## 空港概要

空港名 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
ヒースロー (BAA)	3902m 3658m	48.1万回	6807万人 (92:8)	140万t	88ヶ国、163都市 4153便/週	・24時間運用 ・国際線ハブ空港、国内線
ガトウィック (BAA)	3316m	26.7万回	3522万人 (89:11)	18万t	53ヶ国、115都市 1373便/週	・24時間運用 ・国際線、国内線
スタンステッド (BAA)	3048m	20.8万回	2378万人 (89:11)	23万t	28ヶ国、126都市 1142便/週	・24時間運用 ・主として欧州国際線、国内線、LCC(ライオンエアーのハブ空港)
ルートン (ACDL 1)	2160m	12.0万回	995万人 (85:15)	4万t	20ヶ国、56都市 438便/週	・24時間運用 ・主として欧州国際線、国内線、LCC(イーজেージェットのハブ空港)
ロンドン・シティ (LCAL 2)	1508m	9.1万回	293万人 (76:24)	0.1万t	13ヶ国、26都市 687便/週	・22:00-5:15の運航時間制限有(土日は更に厳しい制限有) ・大型機は原則乗り入れ禁止 ・欧州国際線、国内線、ビジネスジェット

1 ACDL: Airport Concessions & Development Ltd.    2 LCAL: London City Airport Ltd.

## 各空港の運営状況

政府は、各空港の役割分担について、主体的に関与・決定することはない(航空ネットワークは、エアラインと空港運営者が商業ベースで作り上げるものであり、各空港の性格は、その結果にすぎないとの考え方)。

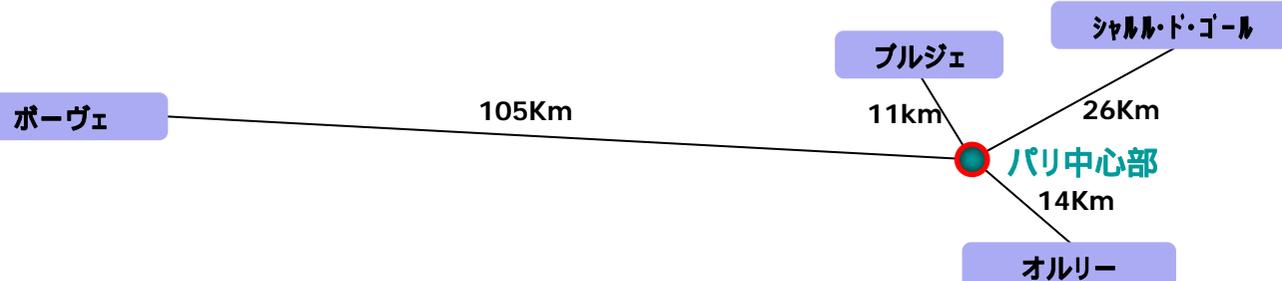
「航空会社や路線の性格によって空港の利用は区別されない」という原則の例外として、1996年空港法に基づき運輸省が定めるTDR(交通分離規則:Traffic Distribution Rules)があり、旅客需要の旺盛なヒースロー空港とガトウィック空港について、混雑時間帯(=ほぼ1日中)は、原則、貨物機とゼネアビ機の離発着を禁止している。

英運輸省は、航空旅客・貨物の長期需要予測を基に、今後30年にわたる基本的な空港政策及び主要空港の将来像をまとめた白書(「航空交通の将来」)を2003年に公表。

白書の中では、ヒースロー空港については、3本目の滑走路と新ターミナルを2015-20年頃までに整備すべきとされ、スタンステッド空港については、近年の急激な発着回数・利用客の伸びを受け、速やかに(2011-12年頃)、2本目の滑走路を整備すべきとされている。

各空港の運営者は、白書で示された方向性を参考にマスタープランを作成することになるが、策定に当たっては、白書の内容にすべからく拘束されるわけではなく、また、地域住民等を対象に行うPIの過程で白書に示された方向性と異なる結果になることもあり得る。

## 都心との位置関係



## 空港概要

空港 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
CDG (ADP )	4215m 4200m 2700m 2700m	55.3万回	5992万人 (92:8)	230万t	101ヶ国、206都市 4527便/週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間運用</li> <li>・深夜早朝(0:00-5:29)は騒音対策のため、発着回数を制限</li> <li>・国際線ハブ空港、国内線</li> <li>・空港用地が広大で、十分な拡張余地がある</li> </ul>
オルリー (ADP )	3650m 3320m 2400m	23.7万回	2644万人 (53:47)	11万t	28ヶ国、71都市 810便/週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深夜早朝(23:30-6:00)は発着禁止</li> <li>・発着回数を年間25万回に制限</li> <li>・国内線、国際線(中・短距離便主体)</li> <li>・住宅地が近くに存在し、拡張の余地がほとんどなし</li> </ul>
ブルジェ (ADP )	3000m 2655m 1845m	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間運用</li> <li>・定期便及び25名以上の座席を提供する欧州域内便の運航を禁止</li> <li>・ビジネスジェット中心</li> </ul>
ボーヴェ (オワーズ県商工会議所)	2430m 1105m	3.0万回	216万人 (99:1)	0万t	8ヶ国、19都市 145便/週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23:00-8:00発着禁止</li> <li>・LCCの基地</li> </ul>

ADP: Aeroports de Paris

## 各空港の運営状況

94年に制定された政令により、ブルジェ空港における定期便及び25名以上の座席を提供する欧州域内便の運航を禁止し、定期便(欧州域内・大陸間国際便)はシャルル・ド・ゴール空港及びオルリー空港で運航  
ビジネスジェットはブルジェ空港がメイン  
との役割分担を形成。

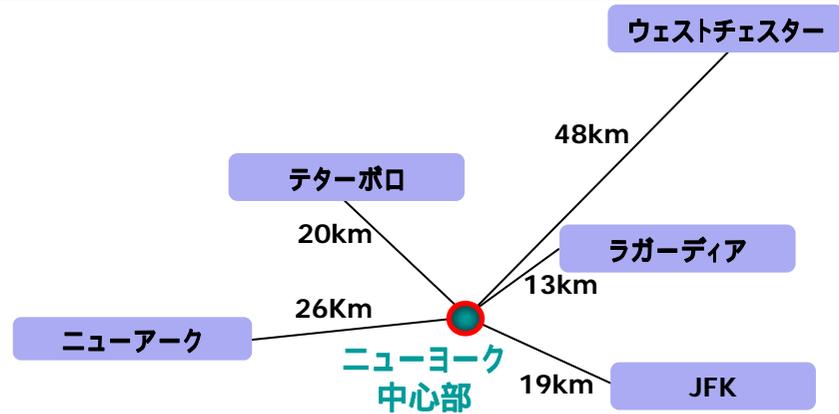
上記政令の目的は、パリに就航しようとするビジネスジェットや小型チャーター機(提供座席数が25席未満)のためのスロットをブルジェ空港で確保し、以て欧州域内の航空輸送の自由化を図ること(規制を設けないとビジネスジェットや小型チャーター機がパリの3空港から事実上閉め出されることを懸念)。

シャルル・ド・ゴール空港とオルリー空港の役割分担については、法令レベルで定めたものはない。ただし、オルリー空港は住宅地が近く拡張余地もないため、発着回数を年間25万回に制限しており、増加する航空需要をシャルル・ド・ゴール空港で賄っているのが実情。

25名以上の座席を提供する欧州域内便の運航をブルジェ空港で禁止していることについて不満の声がある模様。一方、仏政府は、25名以上の座席を提供する大陸間国際便の運航も禁止することを検討。

ボーヴェ空港は着陸料が比較的安いいためLCC(ライアン・エア等)の利用が増加している。

## 都心との位置関係



## 空港概要

空港名 (運営主体)	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
ラガーディア (PANYNJ 1)	2134m 2134m	39.2万回	2503万人 (5:95)	1万t	9ヶ国、15都市 322便/週	・24時間運用 ・国内線(原則1500マイル以内) ・一部国際線就航(カナダ東部、カリブ海諸国)
JFK (PANYNJ 1)	4400m 3459m 3047m 2559m	44.6万回	4772万人 (45:55)	161万t	71ヶ国、114都市 1654便/週	・24時間運用 ・国際線(全方面)、国内線
ニューアーク (PANYNJ 1)	3353m 3042m 2073m	43.6万回	3637万人 (30:70)	96万t	47ヶ国、86都市 1059便/週	・24時間運用 ・国内線主体、国際線
テターボロ (PANYNJ 1)	2134m 1833m	18.2万回 2	-	-	-	・24時間運用 ・ビジネスジェット、ジェネラル・アビエーション、貨物(小荷物) ・10万ポンドを超える航空機の利用禁止
ウェストチェスター (ウェストチェスター郡)	1996m 1357m	17.7万回	166万人 (1:99)	-	1ヶ国、1都市 18便	・24時間運用 ・国内線主体、国際線(カナダのみ)

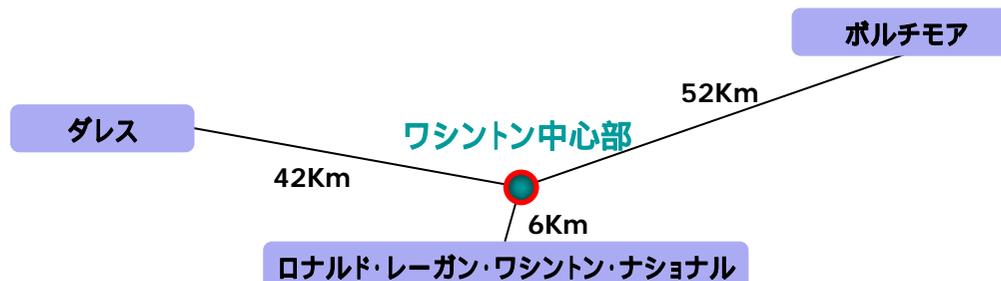
1 PANYNJ: ニューヨーク・ニュージャージー港湾局      2 PANYNJ公式HPより

### 各空港の運営状況

ラガーディア空港における運航距離制限(ペリメータールール)は、同空港の容量に物理的な制約がある中で、集中する需要を抑え、より大きな容量を有するJFK空港とニューアーク空港への利用分散を促進するために、同空港を短・中距離専用空港として運用するもの。

具体的には、ラガーディア空港の発着については、PANYNJの空港管理権に基づき、1984年より、1,500マイル以遠の地点とのノンストップ運航が禁止されている。(ただし、デンバー路線、土曜日における運航等には距離制限を適用しない。)

## 都心との位置関係



## 空港概要

空港	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線 就航先	備考
ダレス (MWAA)	3505m 3505m 3200m 2865m	38.3万回	2453万人 (24:76)	36万t	36ヶ国、46都市 617便/週	・24時間運用 ・国際線(全方面)、国内線 ・2008年に4本目の滑走路(2865m)が供用開始
レーガン・ナショナル (MWAA)	2094m 1586m 1497m	27.5万回	1867万人 (2:98)	0.2万t	10ヶ国、15都市 216便/週	・24時間運用 ・国内線主体(原則1250マイル以内) 一部国際線就航(カナダ東部、カリブ海諸国)
ボルチモア (ボルチモア市)	3203m 2903m 1832m 1525m	29.7万回	2150万人 (5:95)	12万t	9ヶ国、12都市 220便/週	・24時間運用 ・国内線主体

MWAA:メトロポリタン・ワシントン・エアポート・オーソリティー(公社)

### 各空港の運営状況

レーガン・ナショナル空港における運航距離制限(ペリメータールール)は、同空港におけるジェット機の使用を限定的に維持しながら、ダレス空港の利用を促進し、レーガン・ナショナル空港周辺の騒音を緩和する目的で導入。

現在、レーガン・ナショナル空港の発着は、連邦法及びFAA規則に基づき、1,250マイル以遠の地点とのノンストップ運航が禁止されている。(1966年導入当初は650マイル。その後、1,250マイルまで拡大。)ただし、例外的に24スロット分については、1,250マイルを超えてノンストップ運航が可能。

一方、国際路線であっても、運航距離制限内にあるカナダ東部、バハマ、バミューダについては、レーガン・ナショナル空港との直行便が認められている。

ダレス空港、ボルチモア空港は、就航都市、国内・国際路線の選択は原則自由。

都市	空港	滑走路	発着回数	旅客数 (国際:国内)	取扱貨物量	国際線就航先
東京	成田 (成田国際空港会社)	4000m 2180m	19.5万回	3548万人 (97:3)	225万t	40ヶ国、94都市、1552便/週
	羽田 (国・日本空港ビルデング等)	3000m 3000m 2500m	33.2万回	6682万人 (3:97)	85万t	3ヶ国、3都市、98便/週
	<b>合計</b>		<b>52.7万回</b>	<b>1億230万人</b>	<b>310万t</b>	
ソウル	仁川 (仁川国際空港公社)	4000m 3750m 3750m	21.3万回	3142万人 (98:2)	256万t	43ヶ国、124都市、1787便/週
	金浦 (韓国空港公社)	3600m 3200m	11.2万回	1381万人 (12:88)	19万t	2ヶ国、3都市、105便/週
	<b>合計</b>		<b>32.5万回</b>	<b>4523万人</b>	<b>275万t</b>	
北京	北京 (北京首都国際機場有限公司)	3800m 3800m 3200m	40.0万回	5358万人 (24:76)	119万t	49ヶ国、77都市、833便/週
上海	浦東 (上海機場集団有限公司)	4000m 3800m 3400m	25.4万回	2908万人 (46:54)	256万t	30ヶ国、61都市、938便/週
	虹橋 (上海機場集団有限公司)	3400m	18.7万回	2263万人 (1:99)	39万t	2ヶ国、2都市、63便/週
	<b>合計</b>		<b>44.1万回</b>	<b>5171万人</b>	<b>295万t</b>	
香港	香港 (香港機場管理局)	3800m 3800m	30.5万回	4704万人 (100:0)	377万t	43ヶ国、112都市、2650便/週
シンガポール	チャンギ (CAAS)	4000m 4000m	22.3万回	3670万人 (100:0)	192万t	43ヶ国、115都市、2379便/週
クアラルンプール	クアラルンプール (マレーシア空港ホールディング)	4124m 4056m	19.4万回	2645万人 (65:35)	65万t	44ヶ国、92都市、1494便/週
ロンドン	ヒースロー (BAA)	3902m 3658m	48.1万回	6807万人 (92:8)	140万t	88ヶ国、163都市、4153便/週
	ガトウィック (BAA)	3316m	26.7万回	3522万人 (89:11)	18万t	53ヶ国、115都市、1373便/週
	スタンステッド (BAA)	3048m	20.8万回	2378万人 (89:11)	23万t	28ヶ国、126都市、1142便/週
	ルートン (ACDL)	2160m	12.0万回	995万人 (85:15)	4万t	20ヶ国、56都市、438便/週
	ロンドン・シティ (LCAL)	1508m	9.1万回	293万人 (76:24)	0.1万t	13ヶ国、26都市、687便/週
	<b>合計</b>		<b>116.7万回</b>	<b>1億3995万人</b>	<b>185万t</b>	
パリ	CDG (ADP)	4215m 4200m 2700m 2700m	55.3万回	5992万人 (92:8)	230万t	101ヶ国、206都市、4527便/週
	オルリー (ADP)	3650m 3320m 2400m	23.7万回	2644万人 (53:47)	11万t	28ヶ国、71都市、810便/週
	ブルジェ (ADP)	3000m 2655m 1845m	-	-	-	-
	ボーヴェ (オース県商工会議所)	2430m 1105m	3.0万回	216万人 (99:1)	0万t	8ヶ国、19都市、145便/週
<b>合計</b>		<b>82.0万回</b>	<b>8852万人</b>	<b>241万t</b>		
ニューヨーク	ラガーディア (PANYNJ)	2134m 2134m	39.2万回	2503万人 (5:95)	1万t	9ヶ国、15都市、322便/週
	JFK (PANYNJ)	4400m 3459m 3047m 2559m	44.6万回	4772万人 (45:55)	161万t	71ヶ国、114都市、1654便/週
	ニューアーク (PANYNJ)	3353m 3042m 2073m	43.6万回	3637万人 (30:70)	96万t	47ヶ国、86都市、1059便/週
	テターボロ (PANYNJ)	2134m 1833m	18.2万回	-	-	-
	ウェストチェスター (ウェストチェスター郡)	1996m 1357m	17.7万回	166万人 (1:99)	-	1ヶ国、1都市、18便/週
	<b>合計</b>		<b>163.3万回</b>	<b>1億1078万人</b>	<b>258万t</b>	
ワシントン	ダレス (MWAA)	3505m 3505m 3200m 2865m	38.3万回	2453万人 (24:76)	36万t	36ヶ国、46都市、617便/週
	レーガン・ナショナル (MWAA)	2094m 1586m 1497m	27.5万回	1867万人 (2:98)	0.2万t	10ヶ国、15都市、216便/週
	ボルチモア (ボルチモア市)	3203m 2903m 1832m 1525m	29.7万回	2150万人 (5:95)	12万t	9ヶ国、12都市、220便/週
	<b>合計</b>		<b>95.5万回</b>	<b>6470万人</b>	<b>48万t</b>	